

要約

マウランヤ、チャンドラ. 2015. 「遊・戯・王 38巻」と言う漫画に含まれる擬声語. ブラウイジャヤ大学. 日本文学.
指導教授: (I) アジ. スティヤント (II) アグス. ブディ. チャヨノ

キーワード: 音声学、擬音語、擬声語、オノマトペ

日本語言語学には形態論と言う語形の分析を中心となる学問がある。それだけではなく、意味論と言う意味の過程の分析を中心して、音声学と言う言語の音の分析するのもある。この学問は「遊・戯・王 38巻」と言う漫画に含まれる擬声語を研究することで使用されている。筆者はオノマトペについて興味を持ち、特に漫画におけるバックグラウンドノイズを表すオノマトペ、以上の私たちが知っている SFX (効果音) トよばれる。データとして筆者は本研究の問題を答えようとする。それは (1) 「遊・戯・王 38巻」と言う漫画に含まれる擬声語の意味を説明し、(2) また「遊・戯・王 38巻」と言う漫画に含まれる擬声語とオノマトペの形成する言語の音の関係をしらべ、そしてその関係から特別な意味を表すのか筆者が探してみる。

この研究には大坪平次の「擬声語の研究」(1992)ト言う本にある理論を使用され、擬声語の言語の音と形の関係について分析するため。

本研究の方法は記述的です。この本研究の方法はデータの分析の効果を説明するために使われている。本研究のデータは作者の高橋和希の「遊・戯・王 38巻」のオノマトペが使用されている。高橋和希の「遊・戯・王 38巻」は 180 の擬声語があり、そして分類法と発生頻度による選択データは 18 の擬声語のみ使用されている。

筆者は次の研究者たちには擬声語の研究についてをもっと広がってほしい。それで擬声語の言語の音と形の関係について日本語学習者の知識を増大させようを希望している。